

文書意見要旨

1 20政策について

政策 農林水産業の振興

- ・「良産地」は、「優良産地」の方が良い。
- ・「一次産品」と言った場合、6次産業化で産み出された加工品は入らず、原料供給産地のイメージが強くなる。加工面は政策 で読むのかもしれないが、政策 は今の書き方だと売り方だけに力点が入っているので、政策 又は に「新しい県産品の開発」のような一言を入れたら良い。
- ・「意欲あふれる若者たちに支えられた」を「意欲あふれる若者たちとこれを支える地域の人たちによる」としてはどうか。

政策 健康づくりと医療体制の充実

- ・「参画と共同による地域社会」「支え合う福祉」「快適で魅力あるまち」など施策の対象の前に具体的なイメージ（形容するもの）がつけられているが、この施策だけ「健康」がそのまま使われているので、「 の健康づくり」「 な健康づくり」としてはどうか。
- ・「健康づくり」と「医療体制の充実」は、関係が密である一方で、この2つの関係に限定されないで、健やかな暮らしを実現するための「健康づくり」を、時間、空間、仲間などの多様な視点から捉えていく必要がある。
（例えば、健康づくりのために安心して運動したり、遊べる環境（公園や広場など）の整備や心のよりどころとなるコミュニティの形成なども、健康づくりには重要。）
ただし、あまり大きく捉えると包括されて、なくなってしまうため、「健康づくり」は位置づけてほしい。（施策の具体化で反映してもらえればと良い。）

政策 スポーツ立県えひめの推進

- ・「スポーツ立県えひめ」を推進することを政策の一つにすることに賛同。
- ・この政策の方向性を示すにあたって、県の「スポーツ振興基本計画」との整合性を保ちながら、「スポーツ立県えひめ」の具体像が分かりやすく示し、豊かなスポーツライフを実現するために、「いつでも、どこでも、いつまでも」や「スポーツをする、みる、支える」といったキーワードを使うなど、県民に分かりやすく示していただきたい。

2 54施策について

施策1 地域に根差した産業の振興

- ・産業振興のためには企業力の向上が必要なので、取組みの方向に「県内企業が力強く活動できるように、企業力の向上を含め企業の立場に立った総合的な支援体制を整え、・・・」と「企業力の向上を含め」を入れると良い。
- ・主な取組みにマーケティング支援を入れてはどうか。
- ・指標については、アウトカムが出るのに時間がかかるので、プロセス指標として、主な取組みの実施に係るインプットを示すものも入れると良い。
- ・「1地域に根ざした産業の振興」と「商店街空き店舗率」との関連性が見えてこない。（再掲）

施策2 企業誘致・留置の推進

- ・目標には、留置に関する表現が入った方が良い。
- ・製造業の誘致のみならず、情報系など3次産業の企業誘致をさらに意識した方が良い。
- ・主な取組みの「3県内企業の流出防止」について、フォローアップの意味が分かりにくい。

施策3 戦略的な海外展開の促進

- ・現状認識で、海外への販路拡大となっているが、企業は海外への進出は考えても、円高・現地生産拡大といったグローバルな潮流の中では、輸出拡大は考えにくいのではないかと（第1次産品を除く）。（再掲）
- ・指標の輸出額は、その太宗が船や住友金属の銅やニッケルであることと為替の影響が大きく、妥当性に疑問がある。（再掲）

施策4 新産業の創出と産業構造の強化

- ・主な取組みの「4創業・起業への支援」で、「・・・情報の提供」を「・・・情報の提供とサポート」としてはどうか。

施策5 若年者等の就職支援と産業人材力の強化

- ・目標「働きたい人みんながもっと働けるようにしたい」は、狭すぎる。
産業人材力の強化の視点で見れば、在職者の能力の向上や中小企業経営者の経営力向上のための取組みも必要。特に、中小企業経営者の経営力の向上は、施策6の実効性を高めるためにも大切。

- ・「就職支援」と「産業人材力の強化」が繋がっていることは理解するが、この2つの内容を分けずにひとつの項目にまとめている理由を教えてください。
- ・取組みの方向について、
「新規学卒者や失業者等の就労意欲が適切な就職に繋がる雇用環境整備に努める」は、就労意欲のある新規学卒者や失業者等が適切に就職できる雇用環境整備に努めるという意味か。
「さらに、雇用政策に関する国と地方の役割分担については更なる情報収集に努める」は、他の施策にはない語り口で、表現されている意味がよく分からない。
- ・主な取組みの「1若年者の就職支援」の「求人(?)と求職者の双方の条件とニーズを踏まえた支援」は、納得しやすい文章だが、「条件とニーズ」を踏まえていると、マッチングが進まないのが現実。
「踏まえる」という言葉の解釈にもよるが、これからは「企業と求職者のニーズそのものに変化を起さなければならぬ」のだと考える。
そのためにも、若年者の就職支援に関しては、
 - ・若年求職者の就職活動支援
 - ・企業における若年人材採用、育成力向上への支援
 - ・教育機関、家庭における若者の勤労意欲育成への支援
 が必要。
- ・指標について
 - ・新規学卒者の就職内定率については、高校以外の大学等も必要。
 - ・「えひめ子育て応援企業」のように「えひめ若者育成応援企業」のような認定制度があれば、指標になる。
 - ・教育分野では、就業体験、インターンシップ実施校が指標になっているが、(主な取組内容によりますが、)受け入れ企業数(協力企業数)も指標になる。
 - ・「職業訓練修了者数」は、修了した人の総数だけでは指標として不足だと思うので、進路決定者数も入れてはどうか。
 - ・「産業人材力の強化」(又は「労働環境の整備」)の指標として、「職場定着率」もあげられる。

施策6 快適な労働環境の整備

- ・「使用者と労働者の間で生じた紛争の解決」を、「使用者と労働者の間の問題に対する相談体制の強化と紛争の解決」にしてはいかが。
- ・労働災害の防止強化を追加してはいかが。関係諸機関と連携を図る必要がある。

施策7 力強い農林水産業の確立

- ・指標に「認定農業者数」を使うのはやむをえないが、現在、その内容は高齢化等により弱体化していると思われるので、法人形態の農業経営数を加える等内容が強化されていることを示す何らかの指標を加えてはいかが。
- ・目標を「農林水産業の人材力をもっと向上させたい」と表現してしまうと、取組みの方向をうまくカバーできない。

施策8 攻めの農林水産業を展開するための基盤整備

- ・目標を「生産性の高い田畑や果樹園、漁場をもって増やしたい」と表現すると、取組みの方向を十分にカバーしていない。

施策9 選ばれる産地を目指した技術開発の推進

- ・目標の「もっとたくさんの人に信頼してもらえ」という表現は、違和感がある。第一に、内容的に技術開発の話にそぐわないこと。第二に、今まであまり信頼してもらえなかったのか、という印象を与えること。「多様な消費者ニーズに応え、安定供給のできる産地になりたい」等、新品種・新技術開発を通して実現したい内容を書くべきではないか。

施策10 愛媛産品のブランド力向上と販路拡大

- ・10~13に共通する方向性として、「まずターゲット顧客を絞り、それらが求める価値を明確化したうえで、高いレベルでそれを提供して行く」という成功するビジネスモデルの考えを使って行くことが望ましい。

施策11 愛媛の魅力発信力の強化

- ・10~13に共通する方向性として、「まずターゲット顧客を絞り、それらが求める価値を明確化したうえで、高いレベルでそれを提供して行く」という成功するビジネスモデルの考えを使って行くことが望ましい。

施策12 魅力ある広域的な観光地づくり

- ・10～13に共通する方向性として、「まずターゲット顧客を絞り、それらが求める価値を明確化したうえで、高いレベルでそれを提供して行く」という成功するビジネスモデルの考えを使って行くことが望ましい。

施策13 国際観光の振興

- ・10～13に共通する方向性として、「まずターゲット顧客を絞り、それらが求める価値を明確化したうえで、高いレベルでそれを提供して行く」という成功するビジネスモデルの考えを使って行くことが望ましい。

施策23 地域福祉を支える環境づくり

- ・主な取組み「2 質の高い福祉サービスの提供」の「質の高い地域福祉を担う人材の育成と定着化の推進」に、教育機関等との連携を追加してはどうか。

施策24 生涯を通じた心と体の健康づくり

- ・目標の「もっと自分らしくいきいきと暮らせるようにしたい」は、政策21で「いきいきと暮らせる」と使っているので、施策24の目標ではもっと具体的なもの（異なる表現）が良い。
- ・現状と課題で介護を要する高齢者の増加をあげているが、それに対する取組みは施策21のように思う。
- ・取組みの方向が「がん検診」「心の健康（自殺）」を中心にしているが、課題の2つめにある「生活習慣」の改善による健康づくりが重点課題。
- ・施策に「生涯を通じた」とあるので、それぞれの年代に対応した（ライフステージに対応した）健康づくりを加えても良いのではないかと。
- ・指標について、「いきいきとした暮らし」の実現度（成果）を「がん検診受診者数」「自殺者数」のみで図るのには少し抵抗がある。
例えば、保健体育課の子ども健康サポート推進事業などの関連した県の取組みで活用している指標を参考にすると良いのではないかと。

施策25 安全・安心で質の高い医療提供体制の充実

- ・取組みの方向で、「愛媛大学等と連携して」を「関係機関と連携して」に修正。
- ・主な取組み「4 県民の安心の拠り所となる病院の実現」で、「県立病院を核とした一般医療の確立」とあるのを「医師不足地区における」を頭に加える。

施策33 原子力発電所の安全・防災対策の強化

- ・主な取組み「2 原子力発電所の安全対策等の強化」に「原子力施設の見学会や講演会等を通じた原子力発電に関する正しい知識の普及啓発」とあるが、「安全対策等」の「等」に含まれる事業か。誤解を招きやすいのではないかと。

施策39 確かな学力・豊かな心・健やかな体を育てる教育の推進

- ・目標がもっとシンプルになれば良い。
- ・目標に対する指標が合っていない。
施策では、確かな学力となっているので、学力・学習状況調査等を一つの指標に加えては。
- ・指標について、県教育委員会の義務教育課、特別支援教育課、保健体育課で生きる力（確かな学力、豊かな心、健やかな体）に関連するデータを持っているので、それらを参考に検討いただきたい。
- ・主な取組の「4 体力づくりの推進と健康的な生活習慣の確立」について、保健体育課で現在取り組んでいる「体育専科教員の配置を通じた体育の授業力向上」、「インターネットを通じて子どもたちが運動習慣を身につけ切磋琢磨する取組の推進」などは、県民が理解できるのか気になる。
- ・施策39の目標を「子どもたちがもっとたくましく自立した人間へと・・・」としてはどうか。

施策41 教職員の資質・能力の向上

- ・目標が「子どもたちがもっと授業を理解できるようにしたい」だが、教職員の資質・能力の向上が施策なので、目標も教職員の立場からの記述が良い。
例えば、「子どもたちにもっとわかりやすい授業ができるようにしたい」など。
- ・指標の一つが、教職員研修に対する満足度だが、研修内容に対する評価なので、資質や能力の向上に対する成果とは異なる。
わかりやすい授業をするために教職員がどれくらい研修に取り組んだか（研修活動への参加率）などの方が良い。
- ・施策41の目標を「子どもたちがもっと学習内容が理解できる授業を展開できるようにしたい。」としてはどうか。

施策42 学び高め合う生涯学習社会づくり

- ・指標に、「学び含えひめ悠々大学奨励賞受賞者数」をあげているが、学んだことを地域社会に活かす指標としては再考の余地がある。

施策45 競技スポーツの振興

- ・平成29年開催の国体を目指しているが、長期計画は10年後を模索しているため、国体の開催とその後の目標も掲げてはどうか。
同じように、他の項目でも2012年のイベント開催について触れているが、イベント開催後のことにも触れてはどうか（「施策12 魅力的な広域的な観光地づくり」のえひめ南予いやし博2012）。
- ・目標が「愛媛にゆかりのあるスポーツ選手のレベルをもっと高めたい」だが、県が特定の選手のレベルアップを目標にするのは気になる。
- ・指標が、国体の順位とインターハイの入賞数に限定されているが、もっと広い世代で活躍している選手の成果も指標に加えた方が、より県民にとっての成果指標になる。
例えば、目標を「世界大会や全国大会で活躍するようにしたい」として、指標を世界大会や全国大会での入賞数などに検討してはどうか。
- ・取り組みの方向では、大会開催など競技スポーツをする人だけでなく、みる人や支える人の振興も示されているので、そのことに対する指標（例えば、全国規模の大会開催数や大会参加者数など）も加えると良いのではないか。

施策46 環境教育と環境保全活動の推進

- ・「環境教育と環境保全活動の推進」は、「環境教育(学習)」とした方が良いのではないか。
「教育」では限定されてしまうが「学習」であれば県民の自発的な「学び」の支援として全世代が対象とイメージできる。

施策47 地球温暖化対策の推進

- ・「地球温暖化対策の推進」は、53「低炭素ビジネスの振興」と関連付けるのであれば、「低炭素社会の推進」又は「低炭素社会の構築」としても良いのでは。

総括的な意見

- ・暴力根絶に向けて、DVや児童虐待については触れているが、いじめ、高齢者虐待も追加してはどうか。
- ・障害者の表記を「障がい者」とする場合も増えてきているが、どうか。
- ・認知度が高まっているものもあるが、「3R」や「県版BCP」等の用語には、説明を加えても良いのではないか。
- ・「活かす」と「生かす」があるので、統一してはどうか。
- ・54の施策（及び目標）について、それらの相互関連の状況をマインドマップのような形で、1枚の紙に表現してみてもどうか。
バラバラな島だらけになるかもしれないが、ひょっとしたら重要な施策が見つかるかもしれない。（ただし、54施策の目標の妥当性の議論が必要なので、現時点での施策（目標）で作られたマップは、次回の会議等の結果により修正を必要とするかもしれないが。）
- ・全般的に、県としてやりたい施策が並んでいると思うが、県民や企業目線で本当に望まれていることかどうか意見集約も必要。
- ・良好な景色や景観の保存や創出が観光立県や生活重視の地域社会の実現などに大きな影響を及ぼす（リンクしている）ことを記載してはどうか。
- ・次の項目を指標としてはどうか。
 - 農地面積や耕作放棄地
 - 愛媛県職員の中で1年以上の外国滞在経験者数（できれば採用前に）
 - 高校生の県外進学、Uターン率
 - 高校生の県外就職率
 - 県外からの若者の移住数
 - 60歳以上、65歳以上、70歳以上の就職率の推移
 - 公的機関での学び直し者数
 - 再生 エネルギー（水力も含む）量
 - 全輸出量に対する農林水産物（加工も含む）の輸出量
 - 県外と共同施策量
- ・54施策のうち教育に関する部分（38～41）の指標については担当課との打合せが必要。
指標で成果がすべて測れるわけではないが、目に見える形で表れるので理解してもらいやすい部分もある。
それゆえ、指標に振り回されて本筋をはすれてしまう可能性もあり、指標については十分な協議が必要と思う。

3 地域別計画について

南予地域

- ・「もうかる漁業」とあるが、とても分かりやすくインパクトのある表現だと思うので、農業や林業等にも同様の表現を使用しても良いのではないか。

その他

- ・方向性としてはこのようなものだと思う。

4 目標・指標について

- ・目標自体の議論があっても良いのでは。目標の妥当性が審議されないままでは、指標の議論が深められない。
- ・総じて、施策や取組みに関しては各部局で十分に検討されていると思うので賛成だが、それらをまとめて短い文章で「目標」として表現しようとすると、どうしても漏れる部分が残る。そのため、「目標」が前面に出てしまい、「施策」よりも重要視されるようになってしまうと良くない。重要なのは、「施策」と具体的な「取組み」と、それらの実施によって愛顔が増えることにあるので、用いる「指標」は、「目標」に対してではなく、あくまでも「施策」や「取組み」、そしてその結果に対して設けるべき。「目標」は施策を分かりやすく表現したものにすぎないと理解し、「指標」は、「施策」や「取組み」の実施状況（プロセスあるいはインプット指標）及びそれらによる「愛顔」の増え具合を示すもの（アウトカム指標）を用いるようにすべき。
- ・施策に対して目標が妥当かどうか、特に指標などには疑問が残る。例えば、「1地域に根ざした産業の振興」と「商店街空き店舗率」の関連性が見えてこない。また、施策3では現状認識で、海外への販路拡大となっているが、企業は海外への進出は考えても、円高・現地生産拡大といったグローバルな潮流の中では、輸出拡大は考えにくいのではないか（第1次産品を除く）。指標の輸出額は、その太宗が船や住友金属の銅やニッケルであることと為替の影響が大きく、妥当性にも疑問がある。
- ・指標について、現行のものを活用するようには。
- ・「指針」について、まつやまNPOサポートセンターが実施している「NPO事業資金調達実践道場」の講師(企業コンサルタント)が文書化している「NPOの社会貢献度指標」を参考にしているかどうか。（「満足度を数値化することは難しいことではない」とのアドバイスもあり。）

5 その他

- ・県の中で他の課などが同様の取組みをしている事業やそこで計画されている目標 成果指標などと整合性をとっていただきたい。基本計画についても、立案と実行が共通理解のもとに進められるように情報を密に取っていただきたい。
- ・基本構想の「はじめに」の文章のなかに「愛顔」の言葉がなかったのが気になった。知事＝愛顔のようなイメージがあるため、知事の公約や基本理念である「愛顔」が知事の言葉に入っても良いのでは。
- ・「体系図」を「航海」に例えられていますが、それに即すると、県民は「乗客」である。乗客には「目的地」を共有する必要があるため、県民への広報・周知の徹底は、まだまだ見直す余地がある。県職員全員が広報担当であるという自覚を持つとともに、関わる私たちも媒体として告知していく必要がある。